

夏期交流集会の目的を考える

今回の壮行会は道本部青年部「当面する闘争方針」を受け、事前の取り組みとして実施しました。また、今回集会に参加する2人の部員が2年目と経験が浅いことから、しっかりと夏期交の意義について学び、単組の仲間の声を集会へ持ち込めるように配慮しました。当日は友好都市徳島県小松島市の研修生鎌田将裕さんも含め15人の参加で開催しました。

「夏期交流集会（反合理化闘争）について」という題で宮野下青年女性部長が「夏期交流集会とはどういう目的で開催するのか?」「反合理化闘争とは?」「職場ではどんな変化が起きているのか?」「合理化に対抗するためには?」など、集会の必要性や仲間との討論の重要性について解説しました。



左から井出英行さん、宮野下睦青年女性部長、鎌田宗一郎さん

続いて2分散会に分かれ、「職場レポート」を使いながら、日々の業務の中で「おかしい」「矛盾している」など不満・不安に思うことを共有し、その原因や解決について話し合われました。

今回は参加者数の関係上、職種別分散会とはならなかったものの、全体的に人員配置の偏りや不足が報告され、保育職場からは「正職員の採用が12年間ない状態。臨時・準職員で補充しているが、業務内容は正職員と同じで気を使う。将来的に民間委託など考えているのではないかと不安になる」「子どもの発達支援の部署に異動になったが、専門性の高い知識が必要になるため、普段から勉強していないと大変」税務職場からは「同じ課で定時に帰れる部署もあるが、深夜まで残っている部署もあり、本当はその組織構成に疑問や怒りをもたなければいけないが、早く帰れる人たちに対して反感を抱いてしまっていた」。

採用2年目の部員からは「2年目になって業務量が増えた。臨時職員に振り分けなければ仕事が追いつかない」小学生の子どもを持つ部員からは「子どもがインフルエンザになり、職場に休んでくれと言われたが、年休での対応となった。子の看護休暇を小学生まで引き上げるなどの措置をしてほしい」20代前半の部員からは「すぐに虫が出るような職員住宅に住み続けなければいけない程賃金が安い」など多くの声が出されました。

～ 仲間の声を夏期交流集会に！ ～



分散会のようす

その後、夏期交流集会参加者の井出英行さん（地本青年部幹事）と鎌田宗一郎さん（単組青年女性部役員）から参加の決意を述べてもらい、宮野下青年女性部長の団結ガンバローで壮行会を終了しました。



決意を述べる井出さんと鎌田さん

壮行会途中からは地本青年部書記次長の須藤さん（大樹町労連）にも参加していただき、その後開催した交流会にも参加いただき、単組の組織強化のみならず、地本青年部との交流にもつなげてきました。

今回壮行会の中で学んだ夏期交の意義を踏まえながら、分散会で出た仲間の声を夏期交へ持ち込み、全道の仲間と学習討論し、何か一つでも持ち帰って来てもらうことを期待しています。また、多くの仲間との交流が図られ人と人とのつながりが深まることを期待しています。

ちなみに集会参加後は報告会も予定しています。